

授業科目名: 看護キャリア発達論 (Career Development in Nursing)		必修:看 2 年 編入 3 年	1 単位 15 時間 コード:NSA201	担当:西村宣子【看護師】 (図書館棟 8 号室) 富樫恵美子【看護師】
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理とプロフェッショナリズム Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1. キャリアの概念を理解し、自分自身のキャリア発達を主体的に考えることの重要性を理解することができる 2. キャリア発達上で直面する課題およびキャリア発達を促進するための力や資源について理解することができる 3. キャリアデザインの方法を理解し、自らのキャリアデザインを考え、説明することができる				
〔授業の概要〕 キャリアの概念と看護職のキャリアを取り巻く状況、キャリア発達上の課題、組織とキャリア開発の実際について理解を深める。さらに、ゲストスピーカーのキャリア発達の実際についての講演を基に、職業と人生観・生活の質・看護専門職としてのキャリア継続について学ぶ。 自己のキャリアデザインを描くために、自己理解を基盤にし、看護職を職業として現実的に捉え、自身の人生の中にどのように統合していくのか、将来に向けて問題解決や意思決定を個人ワークやグループワークを通して行う。 保健師、助産師、看護師(専門看護師・認定看護師)の実務経験を基に、講義およびキャリアデザインワークにおける学習支援を行う。				
〔授業計画〕 キーワード: キャリア、キャリア発達、キャリアデザイン、自己分析、自己理解				
回 数	日 付	テーマ	内 容	担 当
第 1 回 0.5	11/19・Ⅳ	キャリアと看護職のキャリア	キャリアの概念、キャリアに関連する理論 看護職のキャリアを取り巻く状況	西村 宣子
第 2 回	11/26・Ⅳ	看護職のキャリア発達	キャリアと看護職のキャリア 看護職になる 社会人になる	西村 宣子
第 3 回	12/3・Ⅳ	組織とキャリア発達	組織におけるキャリア開発 看護職のキャリア開発の実際	西村 宣子
第 4 回	12/10・Ⅳ	キャリアデザインワーク 1	自分らしいキャリアのつくり方 キャリアをデザインする方法 他者の力を借りて自己を洞察する	西村 宣子
第 5 回	12/17・Ⅳ	看護専門職者のキャリア発達 1	地域および医療施設における看護職のキャリア発達の実際	西村 宣子 (特別講師)
第 6 回	1/7/・Ⅳ	看護専門職者のキャリア発達 2	(ゲストスピーカーの講演を基に、職業と人生観・生活の質・看護専門職としてのキャリア継続について学ぶ)	
第 7 回	1/14・Ⅳ	キャリアデザインワーク 2	自分のキャリアをデザインする キャリアデザインの共有	西村 宣子
第 8 回	1/21・Ⅳ	まとめ	学習のまとめ	西村 宣子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習なし 復習:授業資料を見直す		
テキスト		適宜授業で提示する		
参考書・参考資料等		適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習態度(20%)、小テスト(30%)、課題(50%)により総合的に評価する。		

授業科目名: 看護管理実習 (Nursing Administration Practicum)	必修:看4年 編入4年	1単位 45時間 NSA401	担当: 西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 I 倫理観とプロフェッショナリズム IV 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護管理者が行う実際の看護管理実践を体験することを通して、人々に安全で質の高い看護サービスを効率的・効果的に提供することをめざして行われる看護管理のあり方について理解する。 1. 必要とされる看護サービスを提供するための看護の組織化について説明できる 2. 看護職員の人的資源管理のしくみについて説明できる 3. 看護活動に必要な物的資源管理のしくみについて説明できる 4. 看護活動に必要な情報管理のしくみについて説明できる 5. 看護の質改善のしくみについて説明できる 6. 円滑な組織運営のためのリーダーシップについて説明できる 7. 施設に対する社会的要請と要請に応じるための看護管理上の課題について説明できる				
〔授業の概要〕 本授業は、看護管理論で習得した知識を基に、医療施設における看護管理者のシャドーイングを通して、人々に安全かつ質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供することを目指す看護管理の実践について学ぶ実習である。さらに実際の看護管理活動の講義、グループワークと学習成果の発表を通して上記に示す到達目標の達成を目指す。 看護管理者としての実務経験に基づき、2名の担当教員が実習の支援を行う。				
〔授業計画〕キーワード:看護管理、人的資源管理、物的資源管理、情報管理、質改善、医療安全管理				
回数	日付	テーマ	内 容	担 当
第1回	1G:6/9 2G:6/9	病院実習	1. 実習病院の機能と看護管理の概要について 実習施設看護管理者の講義 2. 実習テーマの設定(グループワーク)	西村 宣子 富樫 恵美子
第2回	1G:6/10 2G:6/17	病院実習	1. 看護管理者のシャドーイング 2. 看護管理関連部門の見学 3. 学びの共有(グループワーク)	
第3回	1G:6/11 2G:6/18	病院実習	1. 看護管理者のシャドーイング 2. 学びの共有(グループワーク)	
第4回	1G:6/12 2G:6/19	学内実習	1. 夜間・災害時における看護管理・ 2. 学習テーマのまとめ(グループワーク)	
第5回	1G:6/13 2G:6/20	学内実習	1. 設定した実習テーマの学習成果の 発表と共有	
履修条件		看護管理論、成人看護学実習(慢性期)、成人看護学実習(急性期)の各単位を 修得済みであること		
予習・復習		予習:実習施設の概要、復習:看護管理論の授業内容とテキスト		
テキスト		上泉和子他著〔系統看護学講座 統合分野〕看護管理 第10版(医学書院)		
参考書・参考資料等		適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習態度(20%)、到達目標への到達状況(80%)により総合的に評価する。		

授業科目名: 総合実習 (Integration Practicum)	必修: 看4年 編入4年	3単位:135時間 コード:NSA402	科目責任者:西村宣子 (図書館棟8号室)
	実務経験のある教員による授業科目		
	[DP] I 倫理観とプロフェッショナリズム III 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践 VI 多職種との協働		
[授業の到達目標及びテーマ]			
1. 各自選択した領域において実習の課題と目標を明確にし、主体的に実習に臨むことができる。 2. 病院施設や在宅などの多様な場での継続的な看護提供方法、ならびに地域の健康問題を解決・改善する看護活動方法を理解できる。 3. 看護チームの一員として、対象者を地域生活者として捉え、必要な看護援助を提供できる。 4. 保健医療福祉チームの一員として多職種連携・協働や役割調整等の実際を学び、看護職の役割と責任を考えることができる。 5. 総合実習での看護体験を通して、自らの成長と今後の課題を明らかにすることができる。			
[授業の概要]本授業は、9つの領域における実際の看護実践環境において、これまで習得した知識、技術、態度を統合し、実務に即したチームナースングや複数患者受け持ちなど総合的な看護実践能力の向上を目指した実習である。 また、保健医療福祉チームにおける一員としての看護活動や病院・施設・在宅などで療養する対象者を地域生活者として理解し、継続的に看護を提供するとともに、健康づくりなど予防を重視した看護活動についても学ぶ。 保健師・助産師・看護師の実務経験のある教員が各専門領域の実習支援を行う。			
[授業計画]キーワード:看護実践能力の向上、チームナースング、多職種連携・協働、			
1. 実習方法概要			
1)学生は以下の専門領域のいずれかを選択し、それぞれに分かれて実習を行う。 ①基礎看護学領域、②看護管理学領域、③成人看護学領域、④精神看護学領域、⑤高齢者看護学領域、 ⑥在宅看護学領域、⑦地域看護学領域、⑧母性看護学領域、⑨小児看護学領域 2)それぞれの領域においては、専門領域の看護実践に関係の深い入院・入所機関(外来含む)、福祉機関、在宅機関、市町村保健センター等を選定する。3)チームナースング、多職種連携・協働を実習で経験する。 4)実習日程:3週間の日程において各領域の実習を展開する。			
2. 各専門領域の実習概要			
①基礎看護学領域:各自の実習テーマに基づき1人または複数の患者を受け持つ。看護チームの一員として看護実践を行いながら、チームアプローチによる看護展開を学ぶ。 ②看護管理学領域:訪問看護実習を通じて、対象者を「地域生活者」として理解し、尊厳を重視した看護のあり方を学び直す。医療機関における看護チームの一員として、療養の場の移行支援を実践し、多職種連携や協働、看護師の役割について学ぶ。 ③成人看護学領域:医療施設で実際の看護チームに入り、複数の患者への看護実践を体験しながら、メンバーとしてのチームアプローチのあり方及び多職種連携・協働のあり方を学習する ④精神看護学領域:精神科病院においてチームの一員として看護実践を行いながら、学生自身がさらに高めたい精神看護学領域における看護実践能力の向上を目指す。 ⑤高齢者看護学領域:介護保険施設におけるチームアプローチでの看護の提供を経験し、チーム機能やメンバーの役割、多職種連携の実際、看護の役割等を学ぶ。 ⑥在宅看護学領域:訪問看護を利用するひとりの在宅療養者に対し、多職種連携をふまえた在宅看護過程の展開を実践的に学ぶ。また、地域包括支援センターの実習で、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を学ぶ。 ⑦地域看護学領域:市町村保健師が現在感じている健康課題から実習テーマを設定し、地区活動の一部を実践しながら、地区活動の展開方法とその考え方を学ぶ。 ⑧母性看護学領域:助産課程選択者を中心に学生を受け入れる。産後の母子を受け持ち、夜勤帯実習を含むチームナースングを経験する。 ⑨小児看護学領域:設定した実習テーマに基づき、入院や入所が必要な健康障害のある子どもとその家族を受けもつ。看護チームの一員として実習し、チームアプローチを経験する。			
履修条件	選択する専門領域の実習科目の単位を取得していること		予習・復習 各領域で指示する
テキスト	特に指定しない	参考書・参考資料等	各領域、各担当教員が随時指定する
学生に対する評価	実習実践内容(40%)、提出記録物(40%)、学習態度(20%)により総合的に評価する		

授業 科目名	看護研究 Nursing Research	必修：看4年 編4年	単位数：2単位 60時間	担当教員名： 科目責任者 河部 房子〔看護師〕 （研究室：教育棟B307） 講師以上の看護教員全員〔看護 師、保健師、助産師〕
			コード：NSA403	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、看護実践のなかで生じた疑問等を研究テーマへと発展させ、研究計画を立案して実施し、研究レポートを作成して発表をする等の一連の研究プロセスの方法を体験し、看護の質向上のための科学的根拠の蓄積に関する理解を深めることを目的とする。				
〔授業の概要〕 看護実践をよりよいものとしていくためには、看護実践における問題の解決をめざす研究方法を身につけ、科学的なアプローチに基づいて看護実践の改善・充実をはかることが求められる。演習形式で行われる本授業では、研究プロセスの体験を通して看護実践を捉え、看護学の発展を志向する姿勢や素養を培うべく、研究方法や倫理的配慮等、研究プロセスに必要な事項の理解を深めることとする。				
キーワード：研究プロセス、科学的アプローチ、倫理的配慮				
〔授業計画〕				
＜授業方法の概要＞ 1. 研究指導について：学生は、基本的にはそれぞれの関心や研究テーマの希望に沿いながら、9つの看護領域（基礎看護学、看護管理学、成人看護学、精神看護学、高齢者看護学、在宅看護学、地域看護学、母性看護学、小児看護学）のうちのいずれかを選択・所属し、さらにその専門領域のなかで主たる指導教員（講師以上）を決め研究指導を受ける。 2. 授業内容について：本授業科目では、看護研究の初歩的・基礎的なプロセスの全体を経験し、その成果を研究レポート等として提出することを達成目標とし、そのプロセスとしては、おおよそ以下のような項目や内容を含むものとする。 1) 自らの研究目的や動機を明らかにしつつそれに基づいた適切な研究テーマを設定できる。 2) 研究テーマに関する先行研究レビューやクリティーク等を実施できる。 3) 研究テーマに対して適切な研究デザインあるいは研究方法を学ぶと共に選択・実施できる。 4) 研究倫理に関する学びと共に自らの研究において配慮できる。 5) 研究方法に沿ったデータ収集やデータ分析が実施できる。 6) 研究結果を適切かつ妥当に提示できる。 7) 研究結果に基づき、研究テーマに即した考察が、他文献等を参照しつつ実施できる。 8) 一定の結論が導き出され記述できる。 9) 研究実施に先立って必要な「研究計画書」が作成できる。 ＊以上の研究過程全体を、論理的な構成と表現でまとめる（研究レポート）。 3. 授業の進め方と研究成果の提出等 1) 看護研究ガイダンス（全体ガイダンス 2月中に実施）に出席する。 2) 2回の全体講義（看護研究総論・研究倫理）に出席する。 3) 演習やゼミナール等の指導日程・方法等は各担当指導教員と相談しつつ計画し決定する。 4) 研究成果（研究レポート等）は定められた期限までに提出する。				
履修条件		特になし		
予習・復習		各指導教員の指示による		
テキスト		特に指定しない		
参考書・参考資料等		特に指定しない		
学生に対する評価		提出物：研究レポート等（80%）、学習態度（20%）により総合的に評価する		

授業科目名	看護学統合 (Nursing Integration)	必修：看4年 編入4年	1単位 30時間	科目責任者 <u>西村 宣子</u> (図書館棟8号室) 看護教員全員 【保健師・助産師・看護師】	
		実務経験のある教員による授業科目	コード：NSA404		
〔DP〕 VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽 I 倫理観とプロフェッショナリズム					
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
1. これまでの看護学に関する学びを振り返り、本学科のディプロマポリシーに照らして自己の到達レベルを客観的に評価することができる					
2. 4年間の習得状況を踏まえて自分自身の将来像を描き、卒業時までの課題を明確にするとともに具体的な行動目標を設定し、目標達成に向けて取り組むことができる					
3. 看護専門職業人としての今後の課題、目標を設定することができる					
〔授業の概要〕					
ポートフォリオなどを用いて4年間の看護学の学びを振り返り、これまで身に付けた知識・技術・態度の到達レベルを学科のディプロマポリシーに照らして評価を行う。またそれらを踏まえて、自分自身の将来像を描き、卒業時までの課題および看護専門職業人として成長するための目標を明らかにする。さらに、これらの一連のプロセスを通して自己の学びを、教員からの助言や学生間の発表・意見交換を通して、自己評価力を高める。					
保健師・助産師・看護師の実務経験のある教員が、定期的に学習支援を行う。					
〔授業計画〕 キーワード：看護専門職、ポートフォリオ、到達レベルの評価					
回数	テーマ	内 容		担当	
第1回 第2回	*ガイダンス	・本学科のDPと照らした到達レベルの評価方法 ・ポートフォリオの活用の仕方、学習のすすめ方		西村 宣子 富樫恵美子	
第3回	学習の振り返りと可視化	・ポートフォリオ（学習の成果物）などの整理		担当教員（看護研究担当）による個別指導および集団指導	
第4回 第5回	4年間の振り返り 到達レベルの評価	・ポートフォリオ（学習の成果物）などをもとに、これまでの学びを振り返り、本学科のDPに照らして到達レベルを評価する			
第6回		・DPに照らして評価した到達レベルを担当教員と確認する			
第7回 第8回	*中間報告会 自己の成長と卒業時までの課題と目標の共有	・自己の成長、卒業後の自分の将来像、DPに照らした到達レベルの評価、卒業時までに取り組む課題と目標達成に向けた具体的な取り組みについて共有する			
第9回 第10回	目標達成に向けた具体的な取り組み	・卒業時まで提示した目標達成に向けて取り組む ・取り組み状況の確認と評価、将来像および将来にわたる課題と目標の再設定			
第11回		・取り組みと自己評価、将来にわたる課題と目標の再設定を担当教員と確認する			
第12回 第13回	*成果発表会	・自己の将来像、取り組みの成果を発表し、互いの成長を確かめ合うとともに、自己の強みを認識し将来像をより具現化する			
第14回 第15回	・卒業後の目標の設定	・看護専門職人としての自己の将来像を具現化し、新たな課題と目標を設定する。			
履修条件		すべての実習科目の単位を修得、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること			
予習・復習		特になし			
テキスト		適宜紹介する	参考書・参考資料等	適宜紹介する	
学生に対する評価		学習態度（30%）、発表会への参加状況（30%）、記録・最終レポート（40%）			

授業科目名: リーダーシップ論 (leadership)	必修:看 2 年 編入 3 年	1 単位:15 時間 コード: NSA202	担当:西村宣子【看護師】 (図書館棟 8 号室) 富樫恵美子【看護師】
	実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅵ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. リーダーシップとは何か、関連する理論とともに理解できる。				
2. 組織におけるリーダーシップとフォロワーシップについて理解できる。				
3. リーダーシップとマネジメントの関係について説明できる。				
4. リーダーに求められるコミュニケーションスキルについて理解できる。				
5. 看護実践の場で発揮されるリーダーシップのあり方を理解できる。				
〔授業の概要〕				
リーダーとは、人間関係の技術を駆使し、他者に影響を与えながら特定の目標を達成する人物である。リーダーシップにおいて重要な要素には、先見性、コミュニケーション能力、動機付け、自己主導性、計画性、温かさや思いやり、そして統率力が含まれる。本授業では、質の高い看護実践を組織的に推進できるリーダーを育成するために、具体的なリーダーシップの手法や、リーダーに必要なコミュニケーション技術について講義や演習、事例研究を通じて学ぶ。また、特別講師による創造的かつ変革的なリーダーシップの実践事例を通じて、理解を深めることを目指す。看護管理者のリーダーシップの実務経験に基づき、講義および演習を行う。				
〔授業計画〕 キーワード:リーダーシップ、マネジメント、組織の成長、フォロワーシップ				
回 数	日 付	テーマ	内 容	担当
第 1 回	4/9・Ⅳ	リーダーシップとは何か	リーダーシップの定義 リーダーシップの理論的変遷	西村 宣子
第 2 回	4/16・Ⅳ	組織とリーダーシップ	組織とは何か、グループダイナミクス 組織文化、組織の意思決定	富樫 恵美子
第 3 回	4/23・Ⅳ	リーダーシップとマネジメント 自身のリーダーシップの分析	マネジメントとリーダーシップの関係 看護マネジメントとリーダーシップ	西村 宣子
第 4 回	4/30・Ⅳ	フォロワーシップ	組織の中の個人、フォロワーシップ 成熟した組織のリーダーシップ	富樫 恵美子
第 5 回	5/7・Ⅳ	リーダーに求められる コミュニケーションスキル 1	アサーティブなコミュニケーション リーダーシップとアサーティブネス	富樫 恵美子
第 6 回	5/14・Ⅳ	リーダーに求められる コミュニケーションスキル 2	エンパワメント コーチング ファシリテーション	西村 宣子
第 7 回	5/21・Ⅳ	看護実践の場で発揮される リーダーシップ	リーダーシップを発揮した実践活動の 実際	西村 宣子 (特別講師)
第 8 回	5/28・Ⅳ	まとめ	学習のまとめ	西村 宣子

履修条件	特になし
予習・復習	予習なし 復習:授業資料を見直す
テキスト	適宜授業で提示する
参考書・参考資料等	適宜関連図書を紹介する
学生に対する評価	学習態度(20%)、授業課題(50%)、小テスト(30%)により総合的に評価する。

授業 科目名	国際看護論 (Global Health Nursing)	履修年次:	単位数:1	担当教員名: 科目責任者 小黒道子 (非常勤講師) 田中由美子(非常勤講師) 五十嵐ゆかり(非常勤講師)
		看2年 編入3年	コード: NSA203	
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕 I. 倫理観とプロフェッショナルリズム V. 健康づくりの環境の整備の改善 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
【授業の到達目標】 1. 世界の健康課題の背景を社会・経済・文化的側面から理解できる。 2. 国際看護活動と国際機関, 国, ODA, NGO, 住民の役割を理解できる。				
【テーマ】 自分がグローバル社会の一員であることを理解し、健康格差の解決に必要な自己の取り組みを考察できる。				
〔授業の概要〕				
講義・演習を通して、国際看護の役割やグローバル化にともなう健康課題を理解する。また、在留外国人の健康課題とその支援に対する理解も深める。グループワーク課題「開発途上国における健康課題を考える」については、アジア・アフリカにおける国際協力プロジェクトに参画した実務経験に基づき、小黒・田中が担当する。				
キーワード:				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/14	オリエンテーション	授業の進め方、課題説明	小黒道子
第2回	4/14	ミャンマーでの国際協力活動	国際協力の実際と今後の展望を講義	小黒道子
第3回	4/21	国際看護に関連する概念や関連機関を知る	個人ワークの発表と教員によるミニレクチャー	田中由美子
第4回	4/21	国際協力活動や国際保健キャリアパスの実際	国際協力の実際と国際保健キャリアパスに関する講義	田中由美子
第5回	4/28	開発途上国における健康課題を考える①	グループワーク	田中由美子
第6回	4/28	開発途上国における健康課題を考える②	グループワーク発表	小黒道子
第7回	5/12	在留外国人への看護	内なる国際化の実際と看護支援に関する講義 (オンデマンド)	五十嵐ゆかり
第8回	5/12	まとめ	第1-7回までの振り返り、まとめの講義 (オンデマンド)	小黒道子
履修条件		特になし		
予習・復習		授業内で提示する		
テキスト		指定なし		
参考書・参考資料等		授業内で適宜紹介する		
学生に対する評価		授業態度 (40%)、レスポンスシート (30%)、グループワークへの貢献 (30%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	家族看護論 (Family Nursing)	履修年次 選択	1 単位 15 時間	担当教員名: 畠山 とも子 (非常勤講師室)
		看 2 年	コード:NSA204	
		実務経験のある教員による教育科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの環境の整備・改善 Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
(1) 患者・家族と看護師との相互作用を理解し、援助の基本が分かる。				
(2) 家族アセスメントの基本が分かる。				
〔授業の概要〕				
・家族も援助の対象であることを学ぶ。				
・講義、ビデオ学習を通して、患者・家族と看護師との相互作用を学ぶ。				
・自らの家族を知ることによって多様な家族の在り方に気づき、必要な看護が分かる。				

キーワード: 相互作用、円環的思考、価値観				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	12/16	導入講義	家族看護学とは何か	
第 2 回	12/16	私の家族を知る	ジェノグラム・私と私の家族の価値観・私と私の家族の強み	
第 3 回	1/13	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 2 臨床での家族支援 個人面接での関係づくり	
第 4 回	1/13	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 2 臨床での家族支援 個人面接での関係づくり	
第 5 回	1/20	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 3 臨床での家族支援 複数面談での関係づくり	
第 6 回	1/20	ベッドサイドでの 関係づくり	DVDBOOK 3 臨床での家族支援 複数面談での関係づくり	
第 7 回	1/27	家族の多様性	課題レポートの共有	
第 8 回	1/27	家族の多様性	課題レポートの共有	
履修条件		特になし。		
予習・復習		特になし。		
テキスト		特になし。		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		中間レポート 70%、最終レポート 30%		